



町債って何？

御代田町の令和4年度末一般会計町債残高が48億2800万円に上った。こう聞くと不安になるのも無理はありません。町民1人当たりに直すと30万円ほど。知らないうちにそんな借金を背負わされてたなんて町長、どうしてくれる？ 子どもや孫の世代にはどうなっちゃうだい？ まあまあちよっと落ち着いて、話を聞いていただけますか…。

「国債」はなじみがあるけど

まずは町債とはどんなもので、どういう役割のあるものからお話したいと思います。

町債とは、町の借金のことを指します。

国や地方自治体、企業が借金するために発行する書面を「債券」といい、特に国が発行するのが国債、地方自治体が発行するのが地方債（町債もこのに含まれます）、企業が発行するのが社債です。

特に国債はたびたびニュースでも聞きますし、郵便局などで「個人向け国債」を買ったことがあるなど、耳なじみのある方が多いと思います。でも、「町債」を買ったことのある方はほとんどいないでしょう。「町債」はほぼ100%、政府系の金融機関か、銀行、信金、農協など地元金融機関で引き受けてもらうもので、一般町民が買えるケースはごくごくわずかだからです。ただし、都道府県債の中には、個人が買えるものもあります。

公共施設の費用に充当

単に「予算が不足してるから」といって町債の発行が認められるわけではありません。国が厳格なルールを定めています。町債発行が可能な事業の種類は、道路や橋、小中学校、公営住宅などの土木・建設工事や、防災設備、災害復旧など長年にわたり町民にメリットをもたらすものに限られます。ま

た、町債残高が増えすぎて返済の見込み額が一定のラインを超えてしまうとそれ以上町債を発行できないルールもあります。逆に言うと、新たに町債を発行できているということは、町債残高が国のルール内に収まっている証拠だとも言えます。

町債は「10年もの」が多い

さて、「個人向け国債」のホームページを見ると、日ごろ購入できる国債には「変動10年」「固定5年」「固定3年」の3種類あることが分かります。「変動」は市場の金利に合わせて利率が変動するので、「金利が将来高くなるかも」と予想する場合に有利です。「固定」は、買った段階で金利が確定するので、そのほうが安心という方向に向いています。元本は、それぞれの期間終了後一括で国から返してもらいます。

では町債は？といいますが、一

とです。据置3年の場合は、最初の3年は利息だけ支払い、残りの7年間で利息とともに均等に元本を返していくことになります。（表1）をご覧くださいだと、4年目から元本が減るので、それに伴い利息も減っていきます。

世代間の負担を平準化

なぜ国債と違って何年かに分けて元本を返していくのかというと、「世代間の負担の平準化」のためで

す。道路や橋、公共の建物は長年使うものですので、今の世代がすべて負担するよりも、後の世代にも負担してもらおうほうが、より公平だという考え方をしています。もちろん、町財政としても、予算にでこばこがあると年によって予算が不足し、福祉や教育などの予算に影響が出る恐れがあるので、何年かにならして計画的に返済したほうが安心です。

今回の結論

国の厳格なルールに基づいた町の借金

予算のでこばこをなくす役割がある

町長財政講座とは

町の収入をどう確保し、どうやりくりして事業を進めていくか。町の財政に関する話は、それぞれの家計とは違って金額が大きく、ルールも複雑ですが、役場の業務を理解するためには切り離せません。本連載では、小園町長の目線で見えた財政論を、中学生にも分かりやすく、を目標に解説していきます。

今回は、「借金多くて大丈夫？」と題し、冒頭の疑問に答えます。

（表1）固定10年・据置3年の返済イメージ

700万円を、年利1%、固定10年・据置3年で返す場合

1年後	利息の7万円を返す
2年後	利息の7万円を返す
3年後	利息の7万円を返す
4年後	利息の7万円と、元本のうち100万円を返す
5年後	利息の6万円と、元本のうち100万円を返す
6年後	利息の5万円と、元本のうち100万円を返す
7年後	利息の4万円と、元本のうち100万円を返す
8年後	利息の3万円と、元本のうち100万円を返す
9年後	利息の2万円と、元本のうち100万円を返す
10年後	利息の1万円と、元本のうち100万円を返し完済

番多いケースは「固定10年・据置3年」です。据置というのは、その期間中、利息だけを払って、借金の本体である元本は返さないこ